

研究主題

## 「豊かなかかわりの中で自尊感情を高める特別活動」

### ～基礎・基本を踏まえた集団活動を通して～

子供たちにとって学校は社会である。子供たちは、仲間とともに自分たちの手で豊かな生活をつくり出す中で、日々、成長し、夢や希望を大きく膨らませている。しかし、子供たちを取り巻く社会は、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新により、職業の在り方は現在と様変わりすると指摘されるなど、未来の予測が困難となっている。このような社会においては、多様な他者と協働し、合意形成を図りながら自ら新しい生活をつくりだしていかなくてはならない。その社会こそが共生社会（他者を思いやり、自他共に幸せと感じる社会）であり、特別活動が中核となって、共生社会の基盤が培われていくと考える。また、共生社会の基盤をつくる上で、子供たちが自分を大切と認めるとともに、自分以外の他者も大切だと認めるような自尊感情が不可欠である。ここで述べる自尊感情とは、他者を排除してまで自分の優位性を保つという歪んだ自己愛ではない。「自分の大切さに気付き、自分を価値ある存在として尊重し、認める気持ち」であり、「自分と同じように自分以外の人も大切な存在だと認める気持ち」である。（詳しくは研究集録第56集を参照）このような自尊感情を豊かなかかわりの中で高めていくことが、予測困難な社会においても自分の夢を描き続け、未来を切り拓く子供を育てていくことになるのである。

昨年度は、研究主題を「共生社会の基盤をつくる特別活動～豊かなかかわりの中で自尊感情を高める集団活動を通して～」とし、研究を続けてきた。その結果、共生社会の基盤づくりに参画する子供を育てるためには、様々な集団活動や体験活動の指導が欠かせないことを改めて確認することができた。さらに、具体的な指導計画、指導方法などについて研究を深めることができた。また、研究を進めていくことで、豊かなかかわりの中で自尊感情を高める「自分もよくみんなもよい生活」をつくる集団活動では、個の力だけでなく、学校・学級といった集団の力も伸ばしていくことについても再確認することができた。一方で、以下のような課題も明らかになった。①自尊感情の高まりが次年度どう繋がっているのか、②教師間の連携を高める計画はどのようにすればよいのか、である。これらの課題を解決するためには、昨年度の研究を礎に、豊かなかかわりの中で自尊感情を高める特別活動の指導と評価のさらなる研究が必要である。

自尊感情を高めるには個の力を伸ばすとともに、集団の力も伸ばすことが求められる。特別活動は集団活動を特質とするが、個が埋没してしまうような集団活動では、個の力を伸ばすことはできない。自尊感情は他者とのかかわりの中で、「自分が他の役に立っている」「認められている」といった実感が必要だからである。個を生かした集団活動の中でこそ自尊感情は高められるのである。そこで、自尊感情を高める集団活動の研究を進める上で、望ましい集団活動を方法原理とする特別活動の基礎・基本を踏まえる必要があると考えた。「特別活動の基礎・基本」は、学習指導要領に示された目標をおさえた指導である。本会では、①望ましい集団活動であること、②合意形成、意思決定の機会があること、③自主的・実践的な活動であることを基礎・基本と捉える。これまでの研究においても基礎・基本を踏まえた集団活動の研究を進めてきた。しかし、昨今、経験の浅い教員の割合が増加し、これまで大切にしてい

た特質を踏まえた指導が十分に伝達されていない状況も見受けられる。そこで、改めて「特別活動の基礎・基本」を踏まえ、研究を進める必要があると考えた。基礎・基本を踏まえた集団活動をどう展開するかという視点で研究を進めていきたい。例えば、

- ①一人一人が安心してよさや可能性を発揮できる集団活動の基盤づくり
- ②一人一人の思いや願いを生かし、他者との意見の違いを乗り越えて合意形成する話合いの展開
- ③他者のよさも認め、生かそうとする実践活動の在り方
- ④自分たちで課題を見付け、自ら進んで取り組もうとする実践活動の在り方 等である。

これらの活動を豊かなかかわりの中で展開していきたい。自尊感情を高める豊かなかかわりとは、教師がねらいをもって取り組む特別活動の中ではぐくまれるものである。子供同士のかかわりだけでなく、学校全体、異年齢集団など多様な人とのかかわりや豊かな自然、伝統文化などのかかわりも含まれる。豊かなかかわりの中で、特別活動の基礎・基本を踏まえた指導を展開することで、一人一人の自尊感情が高まり、よりよい社会をつくる一員となると考える。そこで、今年度は、研究主題を「豊かなかかわりの中で自尊感情を高める特別活動」とし、副題を「基礎・基本を踏まえた集団活動を通して」とした。

以上の研究主題に基づき、次に示す2つの内容について研究を進めていく。

一つ目は、「豊かなかかわりの中で自尊感情を高める特別活動の指導計画」についてである。系統的な指導計画を作成するため、特別活動の目標や発達の段階をおさえながら、以下の点に留意する。

- ①自尊感情の高まりをめざした基礎・基本をふまえた集団活動の計画を工夫する。
- ②自尊感情の高まりを踏まえた系統的な指導計画を工夫する。
- ③教師間の連携を高める指導計画を工夫する。

そこで、自校の全体計画、各活動・学校行事の年間指導計画、一単位時間の指導計画等の指導計画は、豊かなかかわりの中で自尊感情を高めるものになっているのか捉え直してみたい。また、これらの指導計画が基礎・基本を踏まえた集団活動になっているかどうかについても見つめ直していきたい。

二つ目は、「豊かなかかわりの中で自尊感情を高める特別活動の指導と評価の方法」についてである。自尊感情を高める系統的な指導と評価を行うために、昨年度までの研究を基盤として、以下の点について留意する。

- ①自校の自尊感情が高まった子供の姿を設定する。
- ②自尊感情を高める集団活動の指導方法について実践を通して明らかにする。
- ③集団の雰囲気や人間関係等の変容を見取ることのできるような評価の方法について工夫する。
- ④一人一人のわずかな伸びも見取ることのできるような評価の方法について工夫する。

そこで、各活動・学校行事における指導と評価が自尊感情を高める活動になっているかどうか、具体的には、低学年から中学年、中学年から高学年、高学年から中学校の指導において、基礎・基本を踏まえた集団活動の系統性が意識されているか、子供の成長につながる指導と評価になっているかどうか、見つめ直してみたい。また、その際、次期学習指導要領を視野に入れて研究を進めていく。

子供自身が豊かなかかわりの中で自尊感情を高めていくことで、他者と協働し、よりよい生活や文化をつくり出していく。その積み重ねが、他者を思いやり、自他共に幸せと感じる共生社会をつくり出す。これまで、培われてきた特別活動の特質を踏まえた指導の在り方を継承し、発展させていくことが、よりよい集団や社会の形成者として、子供を成長させると信じている。